

## 小学1年学級活動

1 山口県独自の体験学習法「AFPY (Adventure Friendship Program in Yamaguchi)」を用いた「豊かな人間関係づくり」

(1) 実施について

① 対象学年…小学1年生20人

② 日時…平成22年1月

(2) テーマ ぼくたち・わたしたちの「ふわふわことば」

(3) 目標

○ (感情) ふわふわことば「友だちを(自分を)大切にする言葉」を使い合う楽しさを感じることができる。

○ (行動) 積極的に友だちに関わり、楽しく活動に参加することができる。

○ (認知) ふわふわことばを使うことでクラスが仲良しになることを知り、これからこの言葉を使っていこうと意識することができる。

(4) 本時案

① ねらい 友だちを(自分を)大切にする言葉を知り、それを使う心地よさを体験することで、これからのすごしかたを考えるきっかけとすることができる。

② 準備物 大用紙(ふわふわ雲を描いた)、人数分以上のカード(ポストイット) 筆記用具(児童)、ふりかえりプリント

③ 学習の展開

活動の内容	AFPYの視点
<p>1 約束を確認する。 「スタンディングオベーション」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>活動を止めて静かにする合図を決める。</p> </div> <p>(1) 合図の方法を知る。 ・ 先生が両手をあげて手のひらを左右にまわす。(ex.きらきら星) ・ 気づいた人から黙ってそれをまねて、先生の方へ体を向ける。 ・ 全員がそろそろまで黙って続ける。</p> <p>(2) 練習をする。</p> <p>2 ウォーミングアップのゲームをする。 「キャッチ」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>手のひらに置かれた相手の指を、合図でつかむという反射神経ゲーム。</p> </div> <p>(1) 手をつないで円になる。 (2) ゲームのルールを知る。 ・ 右手をとりのりの人前に出し、左手の人差し指を自分に差し出された手のひらに置く。 ・ 先生の「キャッチ！」のかけ声を合図に、右手で相手の指をつまみ、左手の指は相手から逃げる。 ・ 何回か繰り返したら、右手と左手を変えて同じルールで始める。</p> <p>3 本時の活動をする。 「ふわふわことばのふわふわ雲を作ろう」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大用紙に雲を描いて、ふわふわことばを貼り付ける。</p> </div>	<p>AFPYの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動を止めて静かにする合図を決めることで、穏やかに活動を変える環境をつくることができる。</li> <li>・ この約束が定着すれば、他の教科や活動でも応用できる。</li> <li>・ 雰囲気を感じて行動を改めるといいうS.S.T.(ソーシャルスキルトレーニング)になる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「キャット」や「キャベツ」など、言葉を変えて、「ことば」をより意識させる。</li> <li>・ このゲームをすることで耳に入ってくる「ことば」に意識を向けさせ、次の活動につなげる。</li> </ul>

<p>(1) ふわふわことばととげとげことばを知る。</p> <p>(2) ふわふわことばを発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ありがとう。</li> <li>・ がんばってね。等</li> </ul> <p>(3) ふわふわことばカードを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人数枚で、同じことばでも構わない。</li> </ul> <p>(4) ふわふわ雲に貼る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日頃使っている言葉からいくつか紹介する。</li> <li>・ 友だちから言われてうれしかった言葉など具体的に思い出させる。</li> <li>・ 発表されたことばはカードにして、ふわふわ雲に貼っていく。</li> <li>・ カード作りは児童が作ってもよいし、発表から教師が作成してもよい。</li> </ul>
---	--

できあがったふわふわ雲は、クラスの約束であり、行動目標である。

<p>4 ふわふわことばを使った活動をする。 「ふわふわおにごっこ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ふわふわおにごっこ」のベースになる「みんなおに」を体験する。</li> <li>・ 数人が残っている状態で終了にする。</li> <li>・ みんなでつくった「ふわふわことば」を実際に使ってみるS.S.T.の活動である。</li> <li>・ 知って、使って、評価されることで、それはS.S.T.になる。</li> <li>・ 発表を強制しないふりかえりにしたいが、発表が活性化しないときは数人を指名して発表してもらうことも必要。</li> <li>・ ふりかえりシートは担任が目を通し、必ず肯定的な所見を書き加えて生徒に返す。</li> </ul>
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">全員おにで行う復活おにごっこ</p> <p>(1) 「みんなおに」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歩く速さでおにごっこをする。</li> <li>・ 全員がおにで、誰に当てても構わない。</li> <li>・ 当てられたらその場にしゃがんで動けない。</li> <li>・ 同時は2人ともしゃがむ。</li> </ul> <p>(2) 「ふわふわおにごっこ」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなおにでしゃがんだ人に近づいて、「ふわふわことば」をかけてあげる。</li> <li>・ 「ふわふわことば」で元気が出たら、しゃがんでいる人は復活しておにごっこに参加できる。</li> </ul> <p>5 本時のふりかえりをする。</p> <p>(1) ふわふわおにごっこはどんな気持ちだったか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ おにごっこが楽しかった。</li> <li>・ ふわふわことばを言われて、うれしかった。</li> </ul> <p>(2) ふりかえりシートに感想を書く。</p>	

## 2 備考

AFPYの活動は、冒険(アドベンチャー)がベースの体験学習である。安全な冒険のためには、それを行う準備が必要で、グループのメンバー全員が同じ目的を持って進み始めることと、全員で作成し全員が納得した約束が不可欠である。

低学年にとっての「人間関係作りスキル」は、グループとしての関わりを考えていく活動よりも、相手との関わり方を練習していくSST的な活動が求められる。今回の活動は、ゲーム的要素の強い活動を通じて、楽しい雰囲気の中で「ことば」のもつ意味と力について考えることができるようになっていく。活動そのものがクラスの約束作りでもあるため、その約束を実際に行ってふりかえるというSST(ソーシャルスキルトレーニング)の色の強い活動でもある。

AFPYは、クラスの人間関係をより豊かにしていくために大変有効な教育活動であり、それにより個々が安心して学習に取り組める雰囲気をクラスに醸成することができる。

AFPYはその教育理念から、教科を越えた活動を展開することが可能であり、1年を通じて無理なく学級づくりに取り入れていくことができる。AFPYは多くある教育手法の一つであるため、これを実践しなくてはならないというわけではなく、AFPYを知らずとも、子どもをその気にさせ、結果を出し、意識と行動を次につなげていく温かい教育を展開されている先生方も少なくない。